福岡県議会議員（福岡市中央区）　[2024年11月１日：臨時号]

はら　なか　まさ　し
原 中 誠 志　県政ニュース

〒810-0044　福岡市中央区谷2-14-13　セッション六本松Ａ
Tel：092(406)9390　Fax：092(406)9391　e-mail：info@haranaka.jp　URL：http://haranaka.jp/

『第 50 回衆議院議員総選挙』が実施されました

2024 年 10 月 27 日、『第 50 回衆議院議員総選挙』が施行（投票）されました。即日開票の結果、465 人（小選挙区 289、比例代表 176）の新しい衆議院議員が誕生しました。（前職 343 人、元職 23 人、新人 99 人。うち、女性 73 人）

今回の総選挙にあたっては、本年 10 月１日に石破内閣が発足。首相就任から８日後の10 月９日に解散、10 月 27 日投開票日までわずか 18 日間という異例の短期決戦となりました。なお、解散から投開票までの期間としては、2021 年の 17 日間に次いで、戦後２番目の短期決戦でした。また、2022 年に成立した改正『公職選挙法』に基づき、小選挙区の１０増１０減が行われて、初となる総選挙でもありました。

投票率は全国で低調。九州・沖縄は全県で前回下回る。

今回の総選挙は、政治とカネの問題が大きな争点になったことに加え、物価高や円安など経済対策・生活対策、子ども子育てや年金・福祉など社会保障問題、「ウクライナ戦争」や東アジアの緊張に係る防衛問題なども焦点となり、各党の政策や党首の訴えに衆目が集まり、有権者の投票行動が注目されました。

中央・都道府県・市町村選管は「投票に行こう」、「選挙に行こう」というキャンペーンを進めるなど投票率向上に努めたものの、事前のマスコミ調査では、今回の総選挙の投票率は思ったほど伸びないという報道もあり、各陣営も投票率にやきもきしました。

2022 年の参院選では、過去４番目に低い投票率５２．０５%。今年４月の衆院３補選では、３つの選挙区でいずれも過去最低の投票率を更新しました。

これまでの衆議院議員総選挙では、おおむね 70%前後の投票率で推移していたものの、1996 年の『小選挙区比例代表並立制』の導入以降、投票率は低下傾向を示しています。

九州・沖縄の衆院選（小選挙区）の投票率

	2017年	21年	今回
福岡	53.31	52.12	51.59
佐賀	59.46	58.49	55.99
長崎	57.29	56.89	52.48
熊本	57.02	56.40	52.06
大分	56.98	57.26	55.42
宮崎	50.48	53.66	50.61
鹿児島	56.09	57.71	53.49
沖縄	56.38	54.90	49.96
全国	53.68	55.93	53.85

※単位は%

特に、2012 年、2014 年、2017 年、2021 年の直近４度の衆院選では、投票率が 50%台と低い水準が続いていました。

今回の投票率は、全国平均５３．８５%（前回55．93%）、福岡県５１．５９%（同52．12%）、福岡市５０．６６%（同51．57%）と、注目された選挙の割にはいずれも下がっています。

福岡１区：46.98%（前回 47.56%））、福岡２区：52.47%（同 53.81%、福岡３区）：53.45%（同 54.42%））、福岡４区：53.48%（同 53.97%）、福岡５区：55.54%（同 54.52%）、福岡６区：50.94%（同 51.19%）、福岡７区：52%（同 52.53%）、福岡８区：51.13%（同 53.04%）、福岡９区：49.8%（同 50.95%）、福岡 10 区：50.95%（同 48%）、福岡 11 区：54.44%（54.28%）